

1. 2018 年度報告

(1) 入試関連 (Waseda Vision 150 核心戦略 1 関連)

－ 2020 年度を見据えた各学部・研究科における入試制度改革の実施状況等 －

① 早稲田を目指す資質の高い生徒を広く受け入れる体制づくり

両高等学院の一般入試は関東の私立高校の中では、最も遅い日程で行われ、さらに本庄学院では 2 次試験（面接）があるため、1 次試験から合格発表まで一週間、手続きにはさらに合格発表から 2 日の日程が必要とされた。この間に、本庄高等学院と競合する他校に合格した者がその学校に手続きをして入学を決めてしまう事例が多々起こっていると推測される。また、2 次試験で実施する 5 分程度の面接試験のために本庄学院へ来ることは、特に遠方の受験生にとって時間的・経済的負担になっており、このことが 1 次試験に受かっていながら 2 次試験を欠席することにつながっていたと思われる。

このことに鑑み、海外・地方の生徒にもチャレンジしやすい環境を作るとともに、合格が決まった優秀な生徒に早く入学手続きをしてもらうため、2 次試験（面接）の廃止について 1 年間かけて検討を重ね、2020 年入試から廃止することを決定した。

② 世界から優秀な生徒を集めるための広報戦略の検討

2018 年から梓寮（女子寮）の利用が可能になり、男女とも寮の受け入れ態勢が充実した。このことにより、国内地方のみならず広く世界から多くの生徒を受け入れられるようになった。例えば学校相談会時における寮の見学会など、受験生を増やす広報の在り方の検討を行うとともに、寮行事や学習支援体制など、魅力ある寮づくりを検討した。

(2) 教育関連 (Waseda Vision 150 核心戦略 2、3、4 関連)

－ グローバルリーダー育成にむけた、各学術院・学院・学校における取り組み状況等 －

① SGH 活動、特に国際高校生学会 WaISEC の開催

SGH 活動第 4 年目となる 2018 年度は、本庄学院が主催校となり、11 月 15 日～18 日の日程で WaISEC (Waseda International Symposium on Education and Culture)を開催した。「アジア一人ひとりと、人と自然の共生」を大会テーマとし、基調講演、研究発表とポスターセッション、班に分かれてのフィールドワークと協働学習による最終発表という企画を行った。実行スタッフ、パティ、研究発表に多くの本庄学院生が関わり、実行した。単にイベントのための SGH 活動ではなく、日々の授業活動に位置付けるとともに、多様なフィールドワークプログラムがあり、その成果発表の場として WaISEC を位置付けていることが特徴である。

② 科学教育活動

本校は以前の SSH 指定時代に構築した科学教育教材・プログラムを、指定が外れた現在もほとんど継続しており、加えて本校教員の専門性を活かしかつ経済的負担のない「これがサイエンスだ！」の輪講や合宿など、むしろ SSH 時代よりもその幅が広がっていることが特徴である。そのような活動の中で生徒の科学の芽を育てながら、一方で世界の科学教育を推進する高校とのネットワークや国際高校生科学シンポジウムを利用し、積極的に国際交流と外部での成果発表を行い、グローバルな視点を養っている。

外へ目を向けると同時に、地域に目を向けているのも本校の特色である。本庄市内河川の環境保護活動とその成果発表の場としての市民シンポジウムの開催、学院生が市内小学校での総合学習や市民大学の講師をつとめるなど、地域貢献活動を積極的に行っている。

科学教育活動推進のため、大学教務部指導の下 SSH 再申請への検討を行い、再申請を行った。さくらサイエ

ンスプランでは2つの高校の招へいと科学交流活動を行った。

③ キャリア教育の推進

本校では、今まで夏休みの Summer Seminar、冬休み直前の Winter Seminar を通してキャリア教育を進めてきたが、日常的に自分の未来の姿を考え同時に学部進学へのミスマッチを無くすることを目的として、2018年度から月に1回程度、土曜日の放課後を利用してキャリアデザイン講座を始めた。これは主として様々な業種のOB・OG1名に来てもらい、聴講を希望する後輩たちに対して、身近な形で大学生活や仕事について語ってもらう試みである。

さらに、キャリア教育を推進すべく、Summer Seminar、Winter Seminar、キャリアデザイン講座を含めた年間指導の在り方を検討し、部活動などの他の課外活動に影響を受けやすい Summer Seminar、Winter Seminarをやめ、9月の水・土曜日を使って「秋のキャリアデザイン講座」という形で2019年度以降実施する形とした。

④ エンパワーメントプログラムとアメリカ研修

2017年からISAの協力の下、エンパワーメントプログラムとアメリカ研修を実施している。エンパワーメントプログラムは3日間（2018年度は9月1日～3日）英語漬けで英語力とプレゼンテーション力を高める授業を行い、その最終段階としてアメリカでの語学研修（2018年度は2019年3月17日～27日）でさらに英語力を高めるとともに、ホームステイ、大学訪問などにより異文化や留学生活の様子を体験することを目的としている。エンパワーメントプログラムには20名、アメリカ研修には32名参加した。

（4）国際関連（Waseda Vision 150 核心戦略8関連）

－派遣留学、留学受入促進に向けた環境整備への取り組み状況等－

① 留学を推進するための体制づくり

本庄高等学院では留学しやすい環境を作るために、2017年度より、1年留学しても留年せずに3年で卒業できる留学制度「第二種留学」（今までの1年留年せざるを得ない留学制度を「第一種留学」と呼んで区別）を開始した。

留学制度についてのマニュアルを作成した。保護者に対しては、冬の保護者会で大学国際部の協力の下、説明会を行った。

留学先の検討のため、国際部の協力の下、ニュージーランドの状況の実地調査を行った。

② 留学者の受け入れ態勢の検討

2018年度は長期（1年）2名、短期（2週間）3名の留学生を受け入れた。長期1名（男子）短期3名（女子）は、初めての試みとして滞在先として寮を利用することを行った。年間契約を基本としている寮を滞在先として用いることは、特に短期の場合に克服すべき問題もあるが、留学受け入れ態勢の充実につながるため、今後とも検討整備を行いたい。

今回の短期3名はSGH活動をきっかけにして近年交流を始めた、韓国のHana Academy（韓亜高校）からの生徒である。今年度初めての試みである。本校の2名の生徒も受け入れてもらっている。このような短期留学の形式は、経済・精神的負担が少なく、語学研修や文化体験ができるため、前記のニュージーランドの可能性も含め、本校の今後の交流の可能性を広げるものとして、注目している。

(5) その他

－ (1) ～ (4) に該当しない、学術院独自の戦略・プロジェクト等 －

① カリキュラムの改善と学部推薦選抜制度の充実

今までの総合点方式の学部推薦制度に加え、2018 年度より多面的評価で学部推薦を行う G 選抜制度を開始した。このことにより、さらにモチベーションの高い生徒が学部進学することを期待している。

また、2022 年の新指導要領施行に向け、教育効果が高いカリキュラムの検討を開始した。

2. 2019 年度計画

(1) 入試関連 (Waseda Vision 150 核心戦略 1 関連)

ー 2020 年度を見据えた各学部・研究科における入試制度改革の実施計画 ー

① 早稲田を目指す資質の高い生徒を広く受け入れる体制づくり

2020 年入試より、一般入試 2 次試験（面接）を廃止することを公開した。このことを、海外を含めた入試説明会や学校説明会で丁寧に説明することにより、資質の高い受験生を増やす努力を行う。また、2020 年入試の結果を精査し、2021 年以降の入試に繋げる努力を行う。

② 推薦入試の改革

2018 年度は一般入試の改革を行った。2019 年度は推薦入試の見直しを行う。特に、出願資格として英語力の資格を含める等、学校間でレベルが異なるという問題が指摘される調査書以外の基準を検討する。

③ 世界から優秀な生徒を集めるための広報戦略の検討

2018 年から梓寮（女子寮）の使用が可能になり、男女とも寮の受け入れ態勢が充実した。このことにより、国内地方のみならず広く世界から多くの生徒を受け入れられるようになった。受験生を増やす広報の在り方の検討を行うとともに、寮が魅力あるものにするために、寮プログラムや学習支援体制の検討を継続する。

(2) 教育関連 (Waseda Vision 150 核心戦略 2、3、4 関連)

ー グローバルリーダー育成にむけた、各学術院・学院・学校における取り組み計画 ー

① SGH 活動、とその総括

SGH 活動は 2019 年度が最終年度となる。第 5 年目となる 2019 年度は、今までのプログラムを継続するとともに、5 年間の活動の総括をする年となる。SGH の次世代プログラムである WWL にトライするかの検討とともに、この 5 年間の成果の蓄積を今後どう継続するか・活かしていくか、ポスト SGH の検討を行う。

② 科学教育活動

SSH 再申請が不採択だったが、今までの科学教育活動の継続を行う。

SSH 再申請の検討を行う。また、さくらサイエンスプラン申請の継続を行う。

③ キャリア教育の推進

キャリア教育を推進すべく、2019 年度より Summer Seminar、Winter Seminar、キャリアデザイン講座を含めた年間指導の在り方を検討し、部活動などの他の課外活動に影響を受けやすい Summer Seminar、Winter Seminarをやめ、9 月の水・土曜日を使って「秋のキャリアデザイン講座」という形で実施する。この形の教育効果の検証を行う。

また、月 1 回のキャリアデザイン講座を継続する。

④ エンパワメントプログラムとアメリカ研修の検討と継続

2017 年 2018 年と行ったエンパワメントプログラムとアメリカ研修について、教育効果と継続の検討を行う。

(4) 国際関連 (Waseda Vision 150 核心戦略 8 関連)

ー 派遣留学、留学受入促進に向けた環境整備への取り組み計画等 ー

① 留学を推進するための体制づくり

国際部の協力を得ながら、生徒・保護者への広報の機会を増やすとともに、本校として留学派遣のできる機関や学校の検討を行う。

留学しやすい体制を作るため、留学に関する内規の見直しを行う。

(5) その他

－ (1) ～ (4) に該当しない、学術院独自の戦略・プロジェクト等 －

① カリキュラムの改善と学部推薦選抜制度の充実

今までの総合点方式の学部推薦制度に加え、2018 年度より多面的評価で学部推薦を行う G 選抜制度を開始した。モチベーションの高い生徒をより多く募集するため、広報活動を行うとともに、2018 年度の状況を踏まえ、内規の再検討を行う。

2022 年の新指導要領施行に向け、教育効果が高いカリキュラムの検討を継続する。

② 卒業論文を中心とした論文教育の充実

卒業論文は本庄高等学院教育の大きな特色の 1 つである。ライティングセンターの協力を得ながら、論文教育の充実を図る。

③ 新体育館が広げる本庄学院教育の可能性

2018 年に起工した新体育館について、体育授業や部活動の充実、全生徒に対するイベント開催、地域に根差した体育館の施設運営を検討する。

④ 50 周年に向けての募金活動

2032 年の 50 周年記念と校舎に付随する複合施設建設など教育環境のさらなる充実を目指し、同窓会を中心とした募金活動を具体化する。

以 上